

～令和7年産米作柄振り返り～

1. 令和7年産米の生育状況

- (1) 春先の残雪が多く、平年よりやや遅い移植作業となりました。育苗期は低温により、苗は草丈が短く、根張りの弱い傾向でした。また、移植後の低温により、初期分けつの発生が少なくなりました。
- (2) 梅雨入り・梅雨明けは過去最も早く、6月下旬からの異常高温や7月中の降水量が非常に少なかったことにより、葉色の急激な低下や渇水被害が確認されました。穂肥は1回目時期から積極的な施用が進み、出穂期には指標値並みの葉色に回復しました。
- (3) 出穂盛期は平年並みで、直後より降雨があったことから、気温が下がり、最も高温の影響を受けやすい出穂後10日間は多くの圃場が適温で推移しました。お盆明け頃より高温・高日照となりましたが、積極的な穂肥施用により後期栄養が確保されました。
- (4) 適期刈り取りの意識が高まり、収穫準備が早くに開始され、平年より降水量の多い9月となりましたが、昨年に比べると作業は順調に進みました。

2. 農産物検査結果（10月末日現在）

コシヒカリの1等米比率は77.5%（紙袋・フレコン）、カントリーを含めると87.6%となりました。また、格落ち理由は、除青未熟粒が47%、心白粒19%、部分カメ11%が上位を占めました。

図1：令和7年産米 地区別1等米比率

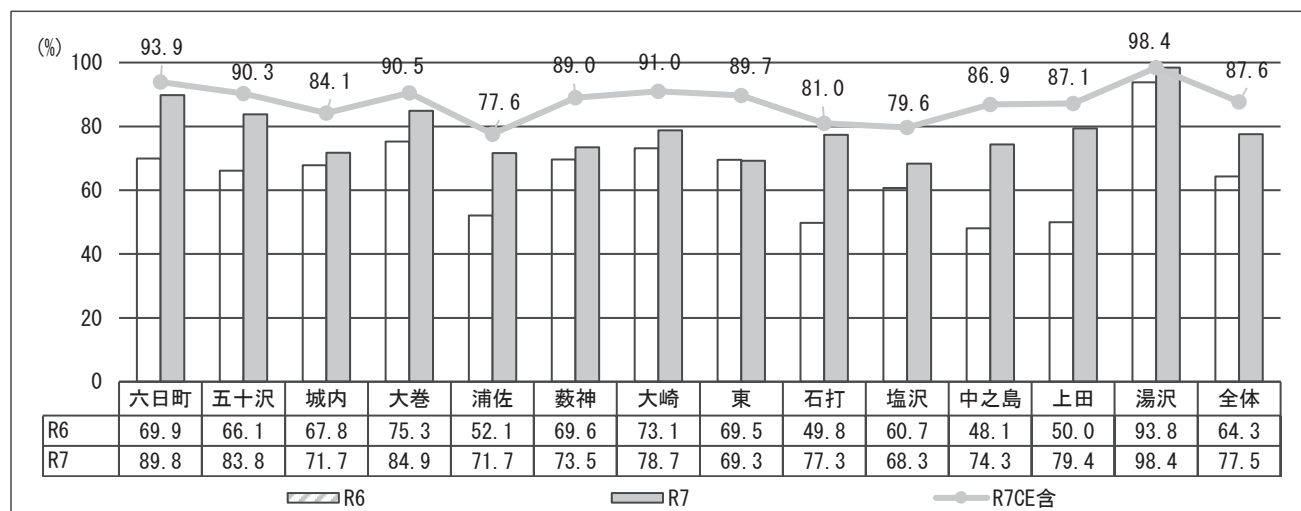
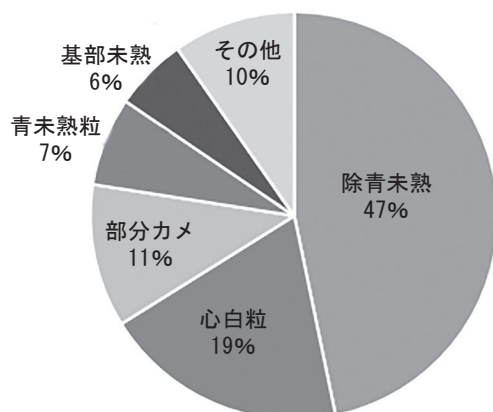


図2：主な格落ち理由



【格落ち理由の特徴】

1. **除青未熟粒** 水不足の地区や倒伏を懸念して穂肥・追肥の施用を抑えた圃場で多く発生しました。
2. **心白粒** 8月後半の高温が影響しました。
3. **部分カメ** 地域差が大きく、高温少雨によって生息密度が高くなりやすい状況であったことと出穂期の降雨により防除時期が遅れたことで被害が増加しました。

3. 収量調査の結果とその要因

表1 収量構成要素および品質（南魚沼農業普及指導センターより）

	穂数	一穂粒数	総粒数	登熟歩合	千粒重	収量	品質
R7	並	多	やや多	並	やや小	並	やや良
R6	やや小	やや多	並	やや不良	やや小	やや不良	やや不良

- ・低温により初期分げつの発生少
・有効茎歩合は高
- ・積極的な穂肥
・一発元肥の穂肥成分早期溶出
- ・積極的な穂肥施用
・出穂後の降雨及び水管理
- ・総粒数がやや多
・幼穂形成期の栄養不足
→小粒傾向

また、水不足の影響や倒伏を懸念した減肥、カメムシの発生状況により地域や圃場ごとに、収量と品質に大きく差が見られた結果となりました。

～令和8年産米重点対策～

『地域目標収量の510kg確保、1等級比率95%、特A堅持』

～異常気象による品質・収量を低下させない丈夫な稲づくり～

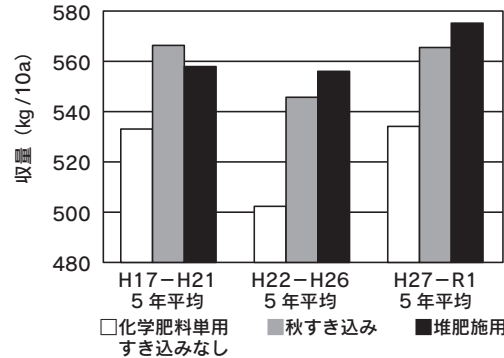
今後の異常気象下でも南魚沼米の品質・収量・食味の維持に向け、できる限りを尽くして産地を守り続けることが重要です。そのため、基本技術を定着化していくことに重点を置いて取り組みます。

1. 土づくりの強化

- ・ケイ酸質資材と有機質資材との併用
- ・秋すき込みの推奨

図1 【有機質の長期連用による収量推移】

(H17～R元年、農総研基盤)



堆肥、稲わらの秋すきこみなど有機質を長期連用すると収量が増加、安定します。

2. 初期生育の確保

～健苗移植～

- ・消毒、浸種作業の開始時期の確認
- ・「段播き」の実施率向上

～分げつ促進～

- ・小苗(4本植え)
- ・浅植え(深さ2～3cm)
- ・「弁当肥」「根付肥」による活着促進

3. 適正な生育量の確保

- ・田植え後25日の生育確認の実施強化
- ・「溝切り」効果の再確認との実施率向上
- ・水利状況にあわせた中干しの加減実施

表1 中干し時期と乳心白の発生（H11年、佐技セ）

中干し 時期	発生率(%)		合計
	乳白粒	心白粒	
早生(5/31)	4.0	0.7	4.7
標準(5/9)	8.4	0.6	8.9
遅期(6/21)	9.5	2.2	11.7

→ 中干しが遅く実施されると乳白粒及び心白粒が多発

具体的な技術対策につきましては、随時「あぜみち」等でお知らせいたします。

4. 生育診断に基づく後期栄養確保と水管理

【穂肥】1回目時期：穂肥診断に基づく施用

2回目時期：確実な穂肥施用の定着

3回目時期：葉色に基づく出穂前穂肥施用

効率的なかん水と出穂後25日までの水管理の徹底

5. 適期収穫

経営規模や積算温度を踏まえた早期収穫計画の策定

6. 病害虫・雑草防除の徹底

- ・本田内の雑草(ノビエ、ホタルイ)の徹底防除
- ・薬剤防除と色彩選別機の活用

7. リスク分散

大規模化による品質低下の防止対策

7年産から見た高温下での品質・収量確保のポイント

7月の高温少雨により、1回目時期の葉色（SPAD値）は指標値より低くなったため、積極的な穂肥施用の周知を行い、例年以上の施用が実施されました。出穂期には葉色が回復し、十分に確保された圃場では、品質・収量の向上に繋がりました。

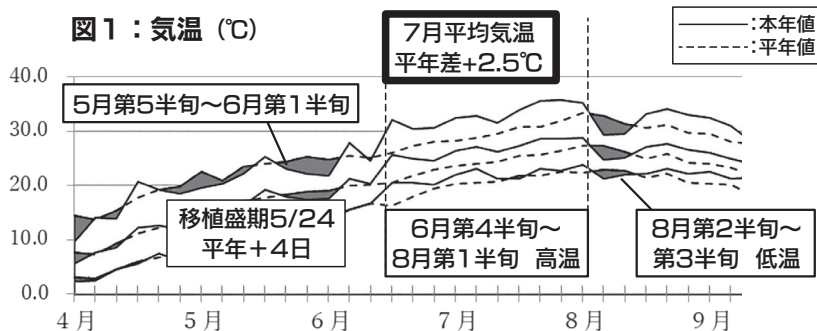


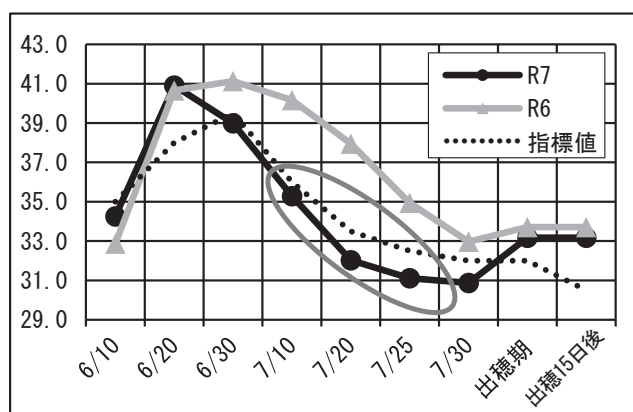
表1 降水量（mm）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
降水量 平年比	72%	111%	99%	21%	89%	146%

表2 日照時間（hrs）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
日照 平年比	80%	82%	132%	208%	125%	122%

図2：葉色（SPAD値）の変化



～生産者アンケート(抜粋)～

管内の出荷契約者を対象に収量調査アンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。

図3：施肥体系の割合（面積）（回答1,392件）

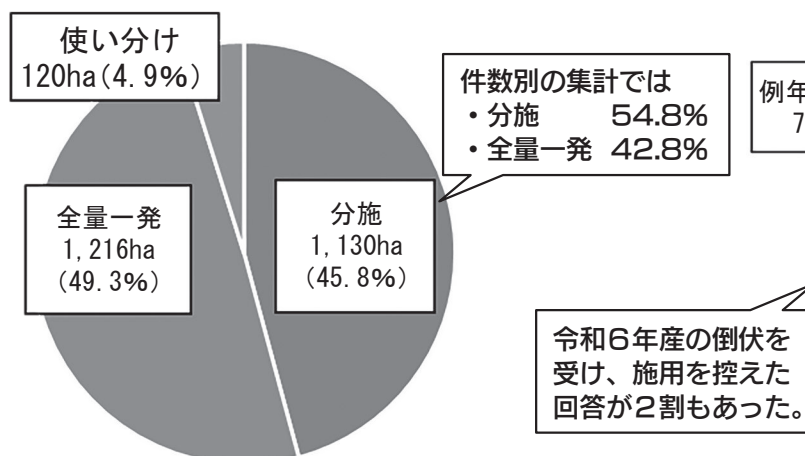
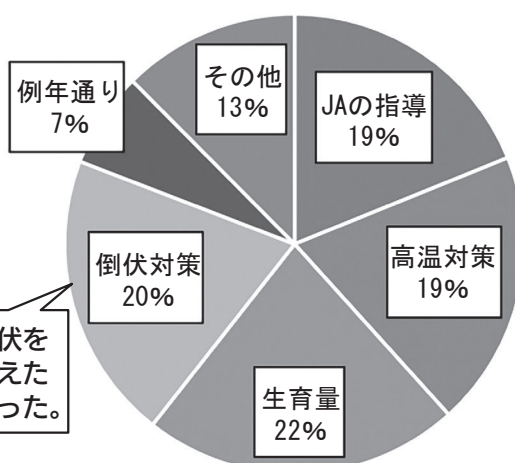


図4：穂肥施用の判断理由（回答731件）



施肥体系別の穂肥回数と平均収量（回答1,044件 内30件の「施肥体系使い分け」含まず）

図5：分施の穂肥回数と10a平均収量

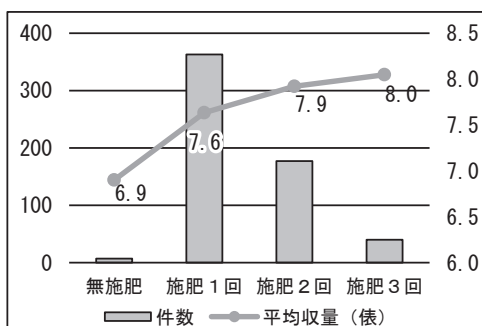
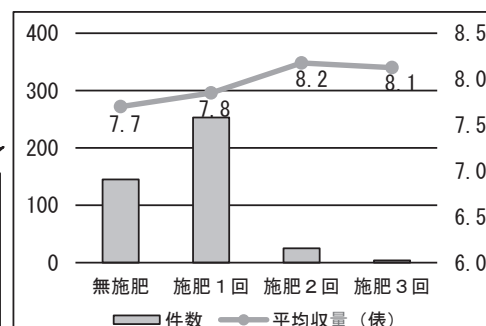


図6：全量一発の穂肥回数と10a平均収量



分施、全量一発ともに、施用回数が多いほど収量が高くなる傾向となりました。

園芸技術情報

～果樹の越冬病害虫防除～

落葉果樹は冬場(発芽前)の防除で、生育・品質低下を招く病害虫の発生を抑制できます。

●石灰硫黄合剤 (殺虫・殺菌の作用があり、特に果樹の越冬病害虫防除に高い効果があります)

作物	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用方法	使用量
落葉果樹	カイガラムシ類、ハダニ類 越冬病害虫	7～10倍	発芽前	散布	おおよそ 10～20ℓ 木1本
もも	縮葉病、胴枯病、黒星病	7倍			
うめ	縮葉病	8倍			
なし・りんご	黒星病	7倍			
くり	芽枯病	20～40倍			
すもも・あんず	ふくろみ病	140倍	－	冬期 夏期	
かき	黒星病、うどんこ病	100倍	－		
果樹類	ハダニ類、サビダニ類	20～40倍 80～200倍			

※「石灰硫黄合剤」は、「ボルドー液」や「キング95マシン」との混用・併用はできません。薬剤使用時は、商品のラベルに記載された登録内容と注意事項をよく確認し、正しく使用してください。

※本剤は強アルカリ性であり、特に皮膚、眼に刺激性があります。適切な作業着を着用し、作業後は手足や顔をよく洗い、洗眼を行ってください。

※展着剤を加用し、調整後はなるべく早く使用してください。また、噴霧器やその他機材を腐食しやすいので、作業後は十分に洗浄を行ってください。

※散布液が自動車、壁等の塗装面に付着すると変色することがあります。散布時は周囲へご配慮ください。

目指せ!販売金額100万円/10a!!



おすすめ理由

～八色西瓜 新規生産者 大募集～



その1 水稲経営との相性がよい! 基本の作型是水稲との両立が可能!

【作業スケジュールイメージ】栽培方法: 改良整枝

	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水稲						田植え						穂肥						稲刈り
西瓜			定植				交配					収穫						

その2 当地域の路地園芸品目としては最も所得が高い!

【八色西瓜 収支事例 ※整枝栽培】植付株 250 株 / 10a × 着果 2 玉 / 株、出荷 440 玉の場合

収 入		収入(計)	経 費		経費(計)	粗収益
販売金額	7 0万円	9 2万円	資 材 費	3 0万円	5 4万円	
奨 励 金	2 2万円		出荷経費	2 4万円		
						3 8万円

※整枝栽培の場合…奨励金500円/玉を加算。

その3 各補助事業が活用できる!

全農担い手支援策・にいがた農業応援ファンド・JA 農業者応援事業等を活用し、新規作付けや生産拡大にかかる資材費等のコストを削減できます! ※補助事業の詳細については別途ご案内します。

新規の方でも安心して栽培できるよう、八色西瓜生産組合・JA 指導員による栽培講習会の開催、技術指導や補助事業の申請等、幅広くサポートします!! お気軽にご相談ください。



JAみなみ魚沼 営農部
LINE登録者募集!!

品質・収量の高位安定化を図るため、作業の「適期」をよりタイムリーに配信していきますので、是非ご活用ください。QRより登録をお待ちしております。

ご登録をお待ちしております!



JAみなみ魚沼 営農部
LINE QR



お問い合わせ: TEL 園芸畜産課(大和) 777-3180 営農指導課(大和) 777-3786
営農指導課(塩沢) 782-1171 営農指導課(六日町) 773-6121